

特定生産緑地制度について

◎知っていますか？

生産緑地の税制優遇を受け続けるためには、生産緑地の指定から30年経過する前に「特定生産緑地」の指定を受ける必要があります。

	特定生産緑地に指定される (10年単位で優遇延長)	特定生産緑地に指定されない (延長しない)
固定資産税等	農地課税が継続	宅地並み課税に上昇
相続税の納税猶予	次世代の方も、 猶予を受けて営農できる	現世代しか猶予を受けられない (次世代の方は猶予なし)
買取申出	死亡等を除き、できない (10年ごとに判断可)	できる

- ・生産緑地の「指定から30年」は、早い方で2022年(平成34年)です。30年経過後は、特定生産緑地の指定を受けることはできなくなるのでご注意ください。
- ・名古屋市において、本制度や生産緑地の新たな貸出し制度(国で制度検討中)に関する説明会を開催します。開催日時は、この農業委員会だより同封のチラシをご覧ください。

名古屋市農業委員会だより 第4号

平成30年7月発行



《平成29年第3回総会 市長との集合写真》

～編集後記～

平成29年9月、新しい農業委員会法による名古屋市農業委員会がスタートしました。

農業委員会だよりは、引き続き発行される事となり、今までどおり名古屋市内の4地区の都市農業を取り巻く直近情勢をお知らせしてまいりたいと思っています。

東部・緑地区は野菜、果樹。西部・守山地区は葉物野菜、サツマイモ、果樹。中川地区は水耕栽培、施設野菜、路地野菜。港地区は水稻、露地野菜など立派な産地になっています。

非農家の方たちで、ボランティアとして農業の応援をしていただける人が増えてきており、農家の後継者たちも積極的に農業生産に取り組んでいただきたいと思います。

最近では各地区で青空市や朝市が開催されており、少量でも生産して販売に結びつけば農業の魅力を理解していただけると思います。

編集長 二村利久

農業委員会担当区域図



～編集委員～

編集長 二村利久

副編集長 近藤正俊

委員

木村幸廣、岩田公雄

山口儀明、石田正彦

奥村光輝、安井勝春

新会長の挨拶

名古屋市農業委員会 会長 岩田 公雄

皆さま、初めまして。改正農業委員会法による名古屋市農業委員会の初めての総会において、会長に互選された岩田公雄です。よろしく願いいたします。

平成29年9月19日、名古屋市長から農業委員16名ひとりひとりに委嘱状が手渡されてから、総会が開催されました。最初に、会長および会長職務代理者が互選されました。次いで、農地利用最適化推進委員13名が選出され、私からひとりひとりに委嘱状をお渡ししました。

ここに、新たな名古屋市農業委員会が、農業委員16名、農地利用最適化推進委員13名、合計29名の新体制にて活動し始めました。

農業委員会では、毎月1回、29名で総会を開催し、農地の転用や農地の権利移動など、法律で決められた諸手続きや、農地に対する相続税の猶予に係る審査などを行っています。

さて、近年、農政は大きく変化しています。「農地利用の最適化」の取り組みとして、名古屋市南西部の水田地帯では、およそ160haの水田が1人の担い手に集約されました。また、都市農地は「宅地化されるべきもの」から「都市にあるべきもの」とされ、生産緑地については、名古屋市では、認められる下限面積について、いち早く500㎡以上を300㎡以上に要件を緩和する条例改正を行い、さらに駅そば生活圏内の農地についても防災協力農地に登録することにより可能となりました。

これ以外の新たな課題に対しましても、名古屋市農業委員会は、29名の委員が一体となり全力で取り組めるように、会長としてかじ取りを行いたいと考えています。皆さまも、名古屋市農業委員会へ、気安くお声掛け下さいますよう、お願いいたします。



東部・緑地区***** ~ 各地区紹介 ~ ***** 中川地区

～愛知の伝統野菜「八事五寸にんじん」～ 近藤正俊(農業委員)

「八事五寸にんじん」は大正8年に天白の農家が東京の種苗会社から導入し、選抜して以来、長年にわたって天白で生産されてきました。しかしながら、今では生産する農家が少なくなっており、地元では、地域の伝統野菜を伝えていこうと、「八事五寸にんじん」に関連したさまざまな取り組みが行われています。例えば、区内の表山小学校では、「八事五寸にんじん」を育てている地元農家の畑で授業を行ったり、小学校の畑で実際ににんじんを育てたりして、地元伝統野菜に親しむ活動を授業に取り入れています。また、地域の大手スーパーでは「八事五寸にんじん」の販売を行い、地域の人々に広く地元伝統野菜を知ってもらい取り組みも行われています。



【種採りにんじんを観察する小学生】

～都市農業を盛り上げる「軽トラ市」～ 山口儀明(農地利用最適化推進委員)

昨秋から緑区の最適化推進委員として活動する中で、都市部の農家が存続していくには、JAと連携し、地域に根ざした取り組みを行っていくことが必要不可欠であると改めて感じています。



【集結した軽トラック】

昨年開催された「軽トラ市」には、JAの呼びかけに応じた組合員の約20農家が、自ら生産した農産物を軽トラックに積んで集結しました。軽トラ市は、軽トラックの荷台を店舗とし、地元産の新鮮農産物を即売するものです。

軽トラ市は都市農業の販路拡大の一環として開催されており、生産者の顔を見て購入することができるため、安心・安全な農業への理解を深めるとともに、地産地消を肌で感じるのが魅力です。

当日は、開始前から来場者が長い列を作るなど大盛況で、人気商品はすぐに売り切れてしまいました。

全域で都市化が進んでいる緑区において、こういった取り組みが継続されることで、地域農業の活性化につながってほしいと願っています。



【ほとんどの農家が完売する大盛況】

西部・守山地区*****

◇岩塚の野菜◇

岩塚は名古屋市西部、庄内川の左岸側に位置して、昔ながらの伝統野菜で愛知大晩生の岩塚キャベツ、厚みがあり甘くて貯蔵性に優れており業務用や船積み等利用されておりました。又、甘くておいしい横井ネギと呼ばれているネギ野菜が有名です。そのほかにも多種の野菜が作られています。

なお、伝統野菜については品種を守る為、種の採取に気をつけ受け継いでいます。



【愛知大晩成キャベツ】



【横井ネギ】



【きねこさ祭】

◇きねこさ祭◇

尾張地名考に「岩塚村に延喜式の愛智群御田神社、本国帳の従三位御田天神とあるは七所明神を言うなり」とあり、八百八十四年頃の創建と考えられる。

毎年旧暦の一月十七日に厄除け、子孫繁栄、天下泰平五穀豊穰などを祈念して行われる「祭礼」です。

この祭は、昭和三十二年に名古屋市無形民俗文化財に指定され、尾張三大奇祭の一つに数えられています。

この中で行われる川祭りは、庄内川にて役者が笹竹を立て、一人が上り竹の倒れた方向でその年の吉凶を占う神事です。今年は南南西に倒れ吉とでました。

祭礼の中で、種おろしの祭文「唄」がありその中で村中の種おろしいたそうよ・・・ふくの種まこよ・・・衆の中には石の子の種あり、千石も万石もで・・・と唄われている様に五穀豊穰、子孫繁栄が望まれ祭を盛り上げています。

荒子円空市をご紹介します



【荒子観音本堂】

中川区にあり、江戸時代の彫刻家である円空が彫った円空仏が多数存在していることでも知られる荒子観音寺では、現在3月から12月(8月は除く)まで、毎月第一日曜日の9時から13時まで「荒子円空市」が開催されています。荒子円空市では、毎回30店から40店程度のお店が出店し、地元の方や荒子観音に参拝に来られた方など1000人程度

の方が来場して、大変な賑わいとなります。その中に、地域で採れた四季折々の旬の野菜やお米を販売しているブースがあり、一般の半額から7割程度の価格で購入できることもあって、毎回人気のブースとなっています。

また、毎年8月10日の17時から21時には荒子観音寺の「九万九千日」に合わせて「荒子円空夜市」が開催されます。人気作家さんのハンドメイド雑貨やアクセサリ、夜市ならではのグルメ、スイーツなどが楽しめます。ランタンフェスティバルや風鈴コンサートも開催されるので、こちらも是非お越しください。



【野菜ブースの様子】



【境内のにぎわい】

***** 港地区

港地区は、市街化区域から市街化調整区域(農業振興地域)まで含むという特徴があります。

農業委員4人・農地利用最適化推進委員4人で庄内川の東側に2人1組、西側に2人で3組の計4チーム編成により、農地の現地調査・面談他それぞれの任務を担当しています。

特に西部の南陽地域においては、農地中間管理機構への農地貸し付けが平成28年度に143ha(1933筆)、平成29年度に23ha(318筆)と広がっています。

南陽の各土地改良区管内では、昔から伝統的に稲作が行われており約300haの水田地帯を耕し、JAに作業委託する「集団栽培」に早くから移行しております。農地中間管理機構を通じ「人・農地プラン」のもと作業委託を「担い手」に変えた貸し出しの動きは続いています。

☆南陽土地改良7地区の「人・農地プラン」検索ウェブサイト: →名古屋市農業委員会→農業に関するお知らせ→人・農地プラン

港地区は、米・スイートコーン・ブロッコリー・トマトなどが特産品です。作付けの多い稲作について、JAなごやによる南陽地区平成30年度品種別作付計画を紹介します。

あいちのかおり	203.3ha	コシヒカリ	61.9ha	ゆめまつり	21.3ha
---------	---------	-------	--------	-------	--------



秋口に水張りされている光景は、翌年に稲種を直接播種する「直播栽培田」です

【H29.11.9 藤高地区】



JAなごやブランド米「陽娘・ひなたむすめ」

農業文化園オリジナル商品